

太陽光発電×水田設置で収入増加

農業の課題... 世界初の新システムで解

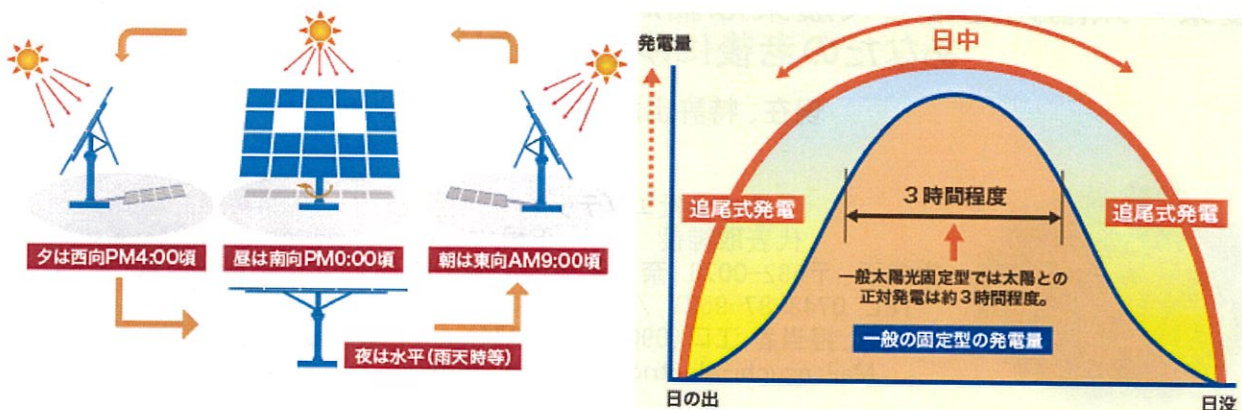


農家にとってだけではなく、日本のエネルギーの切り札にもなるソーラーシェアリング

農家が作物を育てるのは大変な仕事です。しかもそれだけでは収入が少ないので、農業離れが問題になっています。米の売価は比較的安く、農機具や肥料の購入費をまかなえずに赤字になる農家も多いです。そこで、現在農業をしている畑や田んぼ等の農地を立体的に使い、水田の中に太陽光発電システム用の支柱を立てて、その下でこれまで通り作物を育てることが出来るソーラーシェアリングをすれば、電力と農作物の両方を得られ毎月の収入が安定します。何より従来のメガソーラーのように不毛な土地を作らず、自然と共生できることが特徴です。影も動くため稲は日照不足になりません。この発電所の収入で農業会社に外注で農業をしてもらえることも可能です。新規就農者の起爆剤になり得るので後継者不足の解消・雇用の創出にも繋がり、耕作放棄地・遊休農地などの有効活用も出来ます。

ソーラーシェアリングは地域創生・活性化に必要不可欠です。

世界初の新システムとは、水田1反で49.9kwの2軸追尾式の太陽光発電システムでのソーラーシェアリングをすることです。エナテクス社の追尾式太陽光発電システム<エナトラッキングシステム>により、従来の固定式に比べ1.3倍～1.5倍の発電量が得られます。エナトラッキングシステムとは、高精度の光センサーで日の出と共に東を向き一日中太陽の正面になるよう追尾するシステムのことで、安心して使用できる耐久・安定性、台風が多い日本の気候に適した製品設計、Webネット監視システムを採用しているのいつでも発電量を携帯でチェック出来ます。





奈良県天理市海知町の田んぼ1反(約1000㎡)三ヶ所にそれぞれ出力49.9kwの太陽光システムを設置しました。作物に必要な太陽光を確保し、残りを太陽光発電に回すソーラーシェアリングをすれば、農業と売電の両立が可能になります。今回のモデルケースでは稲作をしながら全量売電し、初期投資を約10年で回収できる計算です。

今年6月に田植えをして10月に収穫、周囲の田んぼにも影響はなく、パネルの下で生育させることに成功しました。パネルの高さも充分にあるためトラクターなどの作業も問題なく出来るとしています。

途中二回程台風にも見舞われましたが、太陽光パネルが自動安全モードで水平状態になるので、風が通り抜け風荷重をうけにくく、こちらも問題は起きませんでした。



農業 × 太陽光発電で < 農業は儲からない... > という常識を覆し、あなたの老後にゆとりを作ります。

現在、特許出願済み！！



株式会社エグテック
代表取締役 江口 正司
営業所 〒632-0076 奈良県天理市岩室町149
TEL 0743-87-9621 / FAX0743-87-9631
担当者:江口(090-8231-6974)
Mail: eguchi-electric@sepia.plala.or.jp

